

西陣織は京都が京都であり続ける大事な財産

住民と関係者の声を聞き 西陣の産業と町を守ることは行政の大事な役目です

深刻な不況のもとで西陣を守る緊急提案

日本共産党 京都市会議員 くらた共子

わたしは、着物を愛するひとりの女性として、みなさんに提案します

2010年12月22日

○これまででもこれからも西陣を守り発展に全力をあげます

京都の共産党の発祥の地は西陣です。87年前に西陣労働者や清水焼労働者が集まって誕生し、以来一貫して西陣とともに歩んできました。厳しい弾圧と戦いながら反戦平和の旗を守り抜き、「工場再配置促進法」に反対する闘いで、「西陣で生まれた共産党が西陣を救った」と言われました。その後も帯やネクタイの海外生産・逆輸入、消費税導入反対など、日本共産党は西陣を守るためにたたかってきた歴史を持っています。

日本共産党は、これまでの延長線ではない抜本的な西陣振興策の実現のために、みなさんと力をあわせてがんばる決意です。

○西陣産業は京都の地域経済、雇用、観光を支える重要な産業

西陣織は、歴史と伝統文化に育まれた、京都が世界に誇る織物です。現在も京都の地域経済と雇用を支える重要な産業です。五百年以上の伝統に裏打ちされ、20を超える工程があり、その集積と職人の技によって成り立っています。関連業種が多く、その技術は先端産業にも応用されるなど、西陣織は京都の製造業が持つ優位性、強さの基盤となってきました。

また、国内外の観光客が求める京都の魅力のひとつに「西陣」の存在があります。文化的な魅力とともに、伝統を今に受け継ぐ産業の未来像を発信していくことが必要です。ところが、長引く不況の中で、西陣は崩壊しかねない事態に直面しています。「物が売れない」うえに、賃織りといわれる業者は高齢化と低賃金等で廃業が増え、生産量は急減しています。さらに、織機の設置や部品を直す機料品店も減少し、道具類の枯渇対策やメンテナンス人材の育成は緊急の課題になっています。

○西陣産地への支援強化は緊急の課題

私は、京都市と京都府が協力して、抜本的な西陣の振興策と緊急対策を立案、実行することが必要だと考えます。京都経済の復興をはかり、京都らしさを世界に発信し続ける上でも、伝統和装産業、西陣産地の再生は行政が取り組むべき重要で緊急な課題であることは明らかです。

ところがこの間、市と府がとってきた西陣対策予算は年間で1億円程度にとどまり、さらに技術研修や後継者育成に重要な役割を果たしてきた市染織試験場や住民や労働者の様々な活動の拠点となってきた府の職業能力開発支援センターを廃止するなど、西陣振興とはまったく逆行するものです。私は西陣を守り発展させるために、市や府の果たす役割を含めた抜本策を提案し、みなさんと一緒に考えたいと思います。

3つの提案

1 すべての西陣関係者の知恵と力を集めて振興策を策定 企業誘致補助なみの財政投入を

研究者、地域住民、業界、働く人たちの知恵と力を集めて、産業と地域再生を考え実行する「西陣地域経済振興会議」（仮称）の設置を提案します。そのためには、積極的な財政投入が必要です。府には、大企業の誘致には最高で一社当たり20億円の補助金を出す制度がありますが、西陣や伝統産業にこそ思い切った「制度」が必要です。私は府の制度と合わせ京都市の抜本的な財政投入を求めます。そうしてこそ京都全体の地域経済再生に結実します。

2 個人消費、内需の拡大、暮らしを豊かにすることが和装需要拡大の最大の鍵

長引く不況が「売れない」最大の原因です。大企業が溜めこんでいる 200 兆円以上の一部を雇用と社会保障に回せば、消費者の懐をあたため和装需要の拡大につながります。

3 西陣をいっそう困難な事態に追い込む消費税増税にきっぱり反対

消費税が導入されてから西陣は急速に落ち込んでいきました。民主党政府は、大企業には 5 % の法人税減税を行うとともに、その負担を消費税の増税でまかなおうとしています。

私は、西陣と中小企業を守るためにも、消費税増税反対の立場で頑張ります。

いま急がれる 8つの緊急対策

① 最低賃金のガイドラインと緊急補助金を

西陣織従事者の多くが最低賃金以下の水準です。府や市がガイドラインを定め、業界団体に強く働きかけ遵守させる指導を求めます。

厳しい不況のもと、いま多くの企業が仕事のない労働者に対して「雇用調整助成金」を活用して、賃金の一定の補償を行なっています。ところが、これは雇用保険の制度であり、多くの西陣で働いている人たちには適用されません。伝統産業や西陣織従事者に対する独自の所得保障制度を実現させます。



② 西陣織に携わる後継者の育成を

若い人が西陣織をめざしても、生活できないために離れていく例が増えています。金沢市では研修者に月 10 万円、事業者にも月 6 万円をそれぞれ三年間交付する後継者育成制度があります。技術習得を援助するために、後継者とそれを育成する業者への支援制度を作ることが必要です。

③ 枯渇している道具類や人材確保の緊急策を

織機部品の再利用と新製品の開発で道具類を確保すること、メンテナンスの人材育成と確保が必要です。京都市は、機料品店や業界団体との協力で具体化する、代替品の開発、人材育成も図ると答えました。現場の意見を活かし実施させます。

④ 海外生産の横行にストップ わかりやすい原産国表示の導入を

海外で製織されても一部の加工が日本ということで「日本製」とされるネクタイなどが横行しています。京都市にも実態把握と対策を求めてきました。海外での生産が明確になるように府政、国政との連携で表示を変えさせます。

⑤ 販路拡大のイニシアチブ発揮で、世界に「西陣」の情報発信を

販路拡大へ流通経路の拡大に取り組みます。

西陣織会館で行なわれている「着付け教室」を受講した方が、地域で着物の着付けを教えるなど、和装を楽しむ輪が広がりつつあります。こうした市民生活に根差した取り組みを支援することが和装ファンの裾野を広げることにつながるのではないのでしょうか。同時に、世界に織物の多角的な魅力を発信すること、産地プロジェクトをつくり、ニーズに応じた新商品開発に取り組むことを提案します。

⑥ 元染織試験場機を産地内に復活させること

技術支援や新商品開発を支援する元染織試験場の機能を産地内に復活させます



⑦ 固定資産税の減免や動力電気代などの固定費補助を

固定資産税や動力の電気代など固定費が中小業者の営業を苦しめています。固定資産税の減免や固定費の補助を実現します。

⑧ 西陣再生とまちづくりの地元の取り組みに支援を

いま、観光振興と結合した西陣再生とまちづくりをすすめようと「西陣まち・ミュージアム構想」の取り組みが行われています。公開工房も積極的に行なわれています。「きものを着て歩く西陣」など、産業と地域全体の魅力を創出する取り組みとして積極的な支援を求めます。